

2011年12月23日

 **ガリバー・カー・オブ・ザ・イヤー2011**
 ～ 激動の2011年、消費者が選んだ優秀なクルマ発表 ～

株式会社ガリバーインターナショナル(本社:東京都千代田区、以下:ガリバー)のシンクタンクであるガリバー自動車研究所は、毎年恒例(※1)となる「ガリバー・カー・オブ・ザ・イヤー2011」を発表した。

「消費者にとって本当に価値のあるクルマ」である『ガリバー・カー・オブ・ザ・イヤー2011 大賞』は、新車部門で「トヨタ・プリウスα」中古車部門は「トヨタ・プリウス」が獲得。また、「購入するならこのクルマ賞」新車部門で「トヨタ・プリウスα」中古車部門は「トヨタ・プリウス」が獲得するなどプリウスファミリーが4冠達成とエコカー人気が鮮明になった。賞はその他に「リセールバリュー賞」「研究所長賞」などがある。各賞は以下の通り。

(※1)2003年に開始し、今年で8回目

(※2)リセールバリューとは、「リセール(再び売る)時の「バリュー(価値)」のこと。3年後中古車として再び市場に出る際の人気を指標化したもので、リセール率が高い車は人気があり、低ければ人気のない車となります。

『ガリバー・カー・オブ・ザ・イヤー2011大賞』

新車部門

『トヨタ・プリウスα』
 エコカーにはもう飽きた？



発売前から注目され、納期はいまだに10ヶ月待ち※。7人乗りの手頃なミニバンにハイブリッドの組み合わせと、ベストパッケージで投票を集めた、万人向けのヒット作。

※7人乗り2011年11月28日現在。

中古車部門

『トヨタ・プリウス』
 現実的なエコの代名詞



4年連続の受賞となるプリウス。中古車人気はもとより、中古車販売台数も上昇中の注目株。環境性能の高さと中古車の手軽な価格がポイント。ライバルの出現が待ち遠しいクルマです。

■ **購入するならこのクルマ賞**

新車部門

『トヨタ・プリウスα』



軽・コンパクトに次ぐ人気カテゴリーとなるミニバンクラスにもプリウスが投入されたことで人気絶頂となった。

中古車部門

『トヨタ・プリウス』



この結果を証明するかのよう、販売ランキングでも着々と順位を上げている同車。今後も人気が続くだろう。

■ **リセールバリュー賞 『トヨタ・アルファード／ヴェルファイア ハイブリッド』**

人気の高級ミニバンに遂にハイブリッドモデルが復活。大柄な車体故にハイブリッド化の恩恵が高く、ベースモデルの2.4リッターモデルより50%もの燃費向上を果たした環境性能が人気。もちろん両車の基本となる広さと豪華さなどはそのまま活かされた、環境性能のお手本のようなクルマです。

■ **ガリバー自動車研究所所長賞 『マツダ・デミオ スカイアクティブ』**

時代がハイブリッドカーに流れる中、リッター30km(10.15モード)とガソリン車にも関わらず脅威の低燃費を実現した。小型車はハイブリッド化の恩恵が少なく、エンジンや車体の改良で低燃費化に挑むガソリン低燃費車の先駆けとなった。

■ レポートに関するお問い合わせ

株式会社ガリバーインターナショナル 広報部
 〒100-6425 東京都千代田区丸の内2-7-3 東京ビル25階
 TEL:03-5208-5501 FAX:03-5208-5511

■ レポート総合企画/制作

ガリバー自動車研究所 所長 鈴木詳一

ガリバー・カー・オブ・ザ・イヤー2011 ノミネート車種

・新車部門

2010年11月～2011年10月までに日本国内で発売された主要車種54台。

メーカー	車名
	トヨタ ラクティス
	トヨタ FJクルーザー
	トヨタ ヴィッツ
	トヨタ プリウスα
	トヨタ アベンシス
	トヨタ カムリ ハイブリッド
	トヨタ ビクシス スペース
	レクサス CT200h
	日産 フーガ ハイブリッド
	日産 ジューク ターボ
	日産 セレナ
	日産 リーフ
	日産 モコ
	日産 ラフェスタ ハイウェイスター
	ホンダ フィット ハイブリッド
	ホンダ シビック タイプRユーロ
	ホンダ フィット シャトル
	マツダ デミオ スカイアクティブ
	マツダ アクセラ スカイアクティブ
	三菱 デリカ D2
	三菱 デリカ D3
	スバル フォレスター
	スバル トレジア
	スバル ステラ
	スズキ ランディ
	スズキ ソリオ
	スズキ MR ワゴン
	ダイハツ ムーヴ
	ダイハツ ミラ イース
	フォルクスワーゲン ゴルフ カブリオレ
	フォルクスワーゲン パサート(セダン/ヴァリアント)
	フォルクスワーゲン トゥアレグ
	フォルクスワーゲン シャラン
	メルセデス・ベンツ SLKクラス
	メルセデス・ベンツ Cクラス(セダン/ステーションワゴン)
	メルセデス・ベンツ CLSクラス
	BMW 1シリーズ
	BMW 6シリーズ(クーペ/カブリオレ)
	BMW X3
	ミニ クロスオーバー
	アウディ A6(セダン)
	アウディ A7スポーツバック
	アウディ A1
	アウディ A8
	プジョー 508(セダン/SW)
	シトロエン DS4
	シトロエン C4
	シボレー キャブティバ
	キャデラック CTSクーペ/CTS-Vクーペ
	キャデラック SRXクロスオーバー
	ジープ グランドチェロキー
	フォード エクスプローラー
	フォード クーガ
	フィアット 500ツインエア
	ボルボ S60/V60

ガリバー・カー・オブ・ザ・イヤー2011 ノミネート車種

・中古車部門

2010年11月1日～2011年10月31日までにガリバーで小売されたトップ40台。

ランキング	メーカー	車名
1	スズキ	ワゴンR
2	ホンダ	フィット
3	ダイハツ	ムーヴ
4	ダイハツ	タント
5	日産	セレナ
6	ホンダ	ステップワゴン
7	ホンダ	ライフ
8	トヨタ	エスティマ
9	日産	キューブ
10	ホンダ	オデッセイ
11	トヨタ	アルファード
12	トヨタ	プリウス
13	日産	エルグランド
14	トヨタ	ヴォクシー
15	トヨタ	bB
16	トヨタ	クラウン
17	日産	マーチ
18	スバル	レガシィ ワゴン
19	マツダ	デミオ
20	トヨタ	ヴェッツ
21	スズキ	エブリィ ワゴン
22	トヨタ	ハリアー
23	トヨタ	ノア
24	ダイハツ	ミラ
25	トヨタ	ウィッシュ
26	日産	エクストレイル
27	ホンダ	ストリーム
28	日産	モコ
29	三菱	パジェロ ミニ
30	日産	ノート
31	スズキ	スイフト
32	スズキ	ジムニー
33	マツダ	MPV
34	スズキ	ラバン
35	スズキ	アルト
36	スバル	フォレスター
37	ミニ	BMW ミニ
38	トヨタ	シエンタ
39	ホンダ	バモス
40	日産	ティーダ



ガリバー・カー・オブ・ザ・イヤー2011
調査概要

実施期間	2011年12月16日 ~ 2011年12月20日
調査対象	18歳~69歳の方
調査地域	全国
調査方法	インターネット調査
調査実数	1300サンプル
回答者属性	男性:642人(50%) 女性:658人(50%)
回答者内訳	男性/29歳以下(151サンプル)
	男性/30代(181サンプル)
	男性/40代(182サンプル)
	男性/50歳以上(128サンプル)
	女性/29歳以下(145サンプル)
	女性/30代(198サンプル)
	女性/40代(178サンプル)
	女性/50歳以上(137サンプル)
調査企画	ガリバー自動車研究所
調査機関	株式会社マーシュ



ガリバー・カー・オブ・ザ・イヤー2011 各部門の投票数

今年の結果は一昨年の再来で、プリウス人気が浮き彫りとなった。また、上位の殆どをエコカーが独占した。ここ数年の経済危機やガソリン価格高騰、そして震災やそれに伴う節電など環境意識の高まりが結果に繋がったのではないかと。

- どの車をもっとも優れていると思いますか？ 1つだけお選びください。(有効回答数:1300)

新車部門

順位	車種	票
1	トヨタ プリウスα 	379
2	ホンダ フィット ハイブリッド	112
3	ダイハツ ミライース	73
4	レクサス CT200h	65
5	日産 リーフ	57
6	トヨタ ヴィッツ	44
7	日産 セレナ	43
8	トヨタ ラクティス	41
9	ダイハツ ムーヴ	36
10	スズキ MR ワゴン	32

中古車部門

順位	車種	票
1	トヨタ プリウス 	299
2	スズキ ワゴンR	112
3	ホンダ フィット	99
4	トヨタ クラウン	93
5	日産 マーチ	57
6	トヨタ ヴィッツ	46
7	トヨタ アルファード	43
8	トヨタ エスティマ	42
9	日産 セレナ	38
10	ミニ BMW ミニ	30

- 自分で購入するとしたらどのクルマが良いですか？ 1つだけお選びください。(有効回答数:1300)

新車部門

順位	車種	票
1	トヨタ プリウスα	294
2	ホンダ フィット ハイブリッド	131
3	ダイハツ ミライース	82
4	トヨタ ヴィッツ	68
5	日産 セレナ	58
6	ダイハツ ムーヴ	56
7	スズキ MR ワゴン	52
8	日産 モコ	42
9	トヨタ ラクティス	39
10	レクサス CT200h	35

中古車部門

順位	車種	票
1	トヨタ プリウス	219
2	スズキ ワゴンR	109
3	ホンダ フィット	99
4	日産 マーチ	63
5	トヨタ ヴィッツ	53
6	トヨタ クラウン	45
7	ミニ BMW ミニ	43
8	トヨタ アルファード	40
9	ダイハツ タント	38
10	日産 キューブ	35

新車部門は共にハイブリッド・コンパクト・軽を中心としたエコカーで占められ、唯一セレナが孤軍奮闘という結果に。そのセレナも平成22年度燃費基準+25%を達成しており、ミニバンとしてはエコな部類ともいえる。ただこの結果は、排出ガスというよりも燃費を気にしての結果になったのではないかと。

対する中古車もエコカーが上位を占めるが、意外な中古車がランクインしている。クラウンやアルファードは大型の高級セダン／高級ミニバンのため、お世辞にも環境性能が高いとはいえない。しかし、優れたクルマであることは間違いないといえる。

ガリバー・カー・オブ・ザ・イヤー2011 リセールバリュー賞

順位	メーカー	車名	3年後リセールバリュー
1位	トヨタ	アルファード ハイブリッド	67% ~ 75%
1位	トヨタ	ヴェルファイア ハイブリッド	67% ~ 75%
3位	トヨタ	プリウスα	66% ~ 75%
4位	ホンダ	フィット シャトル ハイブリッド	57% ~ 73%
5位	日産	セレナ	63% ~ 71%
6位	ホンダ	フリード ハイブリッド	57% ~ 71%
7位	トヨタ	FJクルーザー	62% ~ 70%
8位	ホンダ	フィット シャトル	52% ~ 68%
9位	スズキ	ランディ	59% ~ 67%
10位	レクサス	CT200	59% ~ 67%



2011年のリセールバリュー賞はトヨタ・アルファードハイブリッド／ヴェルファイアハイブリッドが受賞。元々ベースとなったガソリンモデルは両車ともに人気が高く、ハイブリッド化により更に時代にマッチしたことが要因。ここ数年のエコカー人気は、リーマン・ショックの直前に起こっていたガソリン価格高騰が引き金となっており、現在は安定しているとはいえレギュラーガソリンで1リッター140円台（石油情報センター／全国平均）と高めで推移しており、このエコカー人気は継続するだろう。そうなると今後益々ハイブリッドカーなどの低燃費車のニーズが高まり、大型車はどんどんハイブリッド化が進むというのが既定路線だろう。

また、ランキングトップ10台中6台がハイブリッドというのも驚きの台数だ。ハイブリッド車のラインアップが増加しておりここ1年は特に多かったともいえるが、多くのクルマがハイブリッド化されることで、電池など的高額商品が量産化効果で安くなる。増えることはユーザーにとってとてもいいことでもある。スカイクタイプなどガソリンのみで低燃費を実現しているクルマもあるが、ハイブリッドの方が印象が良くリセールバリューも高くなりやすい。今後の登場に更に期待できる。

ガリバー・カー・オブ・ザ・イヤー2011 所長賞: マツダ デミオ スカイアクティブ



リセールバリューではハイブリッドカーが圧倒し、デミオの追加モデルであるスカイアクティブは影が薄かった。しかし、ハイブリッドシステムが量産化効果で徐々に安くなってきたとはいえ、安くするにも限界がある。ハイブリッドはガソリン車に必要なパーツに加え、バッテリーやモーター／コントローラーといった部品が追加で必要になり、どうしてもコストが上乗せになってしまうからだ。部品点数が少なくなる電気自動車のほうが安くできる可能性はある（バッテリーが今の10分の1の価格になるかどうかポイントだが）。

そんな中、既存技術を徹底的に追求するスカイアクティブ・テクノロジーを採用したデミオスカイアクティブに1票入れたい。ガソリンエンジンだけでリッターあたり30km(10.15モード)という脅威の低燃費、最近の軽自動車の低燃費競争の影に隠れてしまったが、同クラス



ではダントツの数値を叩き出しており、条件によってはハイブリッドカーと同程度の燃費を記録する。ハイブリッドカーはエンジンが必要不可欠なので、低燃費高効率エンジンの開発は欠かせない。スカイアクティブ・テクノロジーはミッションや軽量化ボディーなどトータルでの低燃費化技術が採用されているが、どれも全てのクルマ作りに反映できる技術だ。ハイブリッドカーとガソリン自動車、それぞれの得意分野で鎬を削りながら今後も低燃費化が図られる。クルマの着実な進化と、驚きの変化に期待したい。

ガリバー自動車研究所 所長 鈴木詳一